

中高生の規範意識の構造とその問題性

Structure and Problems of the Norm Consciousness of Youth

松永 由弥子

Yumiko MATSUNAGA

(平成15年11月4日受理)

青少年非行の深刻化、凶悪犯罪の低年齢化から青少年の規範意識の低下が指摘される現在、その実態を明らかにするために第23期静岡県青少年問題協議会は平成12年度に「青少年・保護者の規範意識に関する調査」を行った。本論では、この調査結果について新たに多変量解析およびクロス集計を行い、中高生の規範意識の構造とその問題性を明らかにしようとした。

多変量解析により、中高生の規範意識は「既存規範同調か既存規範逸脱か」と「自己志向か関係志向か」の2つの軸を基に9つのクラスタに分かれることが明らかとなった。さらに、これら9つのクラスタの特性を明確にするために、この調査で同時に聞いていた親友、父親、母親との関係を聞いた質問とのクロス集計を試みた。その結果、父親、母親との関係を問う質問への回答傾向は、クラスタ間での差異が顕著にみられ、各クラスタの特性が浮き彫りになった。特徴的なことは、既存規範に同調傾向にある中高生は、父親や母親と日常的な関わり合いの多いこと、既存規範に同調あるいは自己志向が強い傾向にある中高生は、父親、母親ともに自分のことをわかってくれていると感じていること、既存規範に同調あるいは関係志向が強い傾向にある中高生は、父親との関わり合いが強いこと、既存規範から逸脱の傾向にあり親友もあまりいない中高生は、両親と日常的な関わり合いが少なく、親が自分のことをわかってくれているかわからないが、一方で父親、母親に気をつけていることである。これらのことから、規範意識形成のためには親子関係が重要ではないかと推測できた。その関係とは決して難しいものではなく、また規範を毅然と示すことではなく、父親も母親も普段から子どもと関わりあいを持つことが重要と思われる。

問題点としては、現代の親子関係の中で、先ほど指摘したような規範意識形成に望ましい状態を作ることが可能かどうかということ、調査を通して青少年の中に新しい時代に新しい規範を作ろうとする兆候が見出せなかったことがあげられた。また、研究上の課題として調査票の設問及び分析方法の妥当性の検討、新しい時代の規範内容の検討があげられる。

1. はじめに

近年、青少年の非行は戦後第4のピークを迎え、深刻な状況にあるといわれている。また、凶悪犯罪の低年齢化も指摘されている。新聞やテレビ番組のニュースではほぼ絶え間なく青少年犯罪が報道されている。このような現象から、青少年の規範意識の乱れや

低下が指摘されることが多い。そこで、第23期静岡県青少年問題協議会では、「青少年の規範意識を育てるために」をテーマに協議が行われ、その中で県内青少年の規範意識に関わる実態を明らかにするべく、平成12年度に「青少年・保護者の規範意識に関する調査」が行われた。¹⁾ 本論は、この調査結果を用いて、中高生の規範意識の構造とその問題性を明らかにしようとするものである。

若者の規範意識については、いつの時代も年長の世代から批判を受けるものであった。最近の青少年の規範意識低下とは、このこととどこに共通点があり、相違点があるのだろうか。また、規範意識に関連して最近の人々の生活や行動をみると、ルールやマナーのような形式的で目に見える基準に対しては敏感であるのに対し、規範や道徳、倫理というような内面的でルールやマナーの土台となるようなものについてはあまり触れずに過ごしているように思われる。このような態度は青少年の規範意識形成にどのような影響を及ぼしているのだろうか。

以上に代表されるような問題意識のもとに、ここでは調査結果の再分析を試みた。具体的には、規範意識の構造を明らかにするために設定した日常生活のさまざまな場面における行動選択についての質問の多変量解析(数量化Ⅲ類)を行い、さらにその結果と親友・父母との関わりに関するクロス集計を行った。多変量解析は、個々の回答の背後にある意識や行動の全体構造を明らかにするための分析手法として考え出されたものである。この手法により、単純なアンケートへの回答では隠れてしまう規範についての「意識」を浮き彫りにしたいと考えた。その上で、その「意識」に関わってくる青少年の環境とは何かを明らかにするために、おそらく関わりが深いであろうと思われる親友・父親・母親との関係を問う設問とのクロス集計を試みた。

2. 多変量解析による中高生の類型化

前述の平成12年度に静岡県青少年問題協議会が行った中高生対象の調査では、日常生活のさまざまな場面における行動選択の基準を問う質問(18問でそれぞれ各2個の選択肢計36選択肢)を設けた。その回答結果を数量化Ⅲ類による分析にかけ、中高生の規範意識や行動様式を枠付ける基準を析出した後、クラスタ分析による類型化を試みた結果、中高生の規範意識は「既存規範同調か既存規範逸脱か」と「自己志向か関係志向か」の2つの軸を基に9つのクラスタに分かれることが明らかとなった。²⁾

図1は2軸を基に9つのクラスタをどのように分割したのかを示したものである。また、図2には9クラスタに回答者がどの程度の割合で分布したのかを示した。ここまでの分析で明らかにできた9クラスタの特性³⁾を大まかに列記してみると、まず、図1中央の第2・9クラスタには、それぞれ155名、183名が属し、全体の26.8%を占めている。第2クラスタには男性、第9クラスタには女性が若干多くなっている。アイデンティティを模索中の普通の中高生というイメージである。次に、第1クラスタは、既存規範に同調し、自己志向に偏っており、中学生が多い。どちらかといえば模範生、優等生タイプである。第3クラスタは、既存規範を逸脱し、関係志向に偏っていて、高校生男性が多くなっている。悪いことはかっこいいアウトロータイプを想像するクラスタである。第4クラスタは、既存規範に同調する一方で、関係志向—自己志向の軸に対し

図1 9分割の詳細

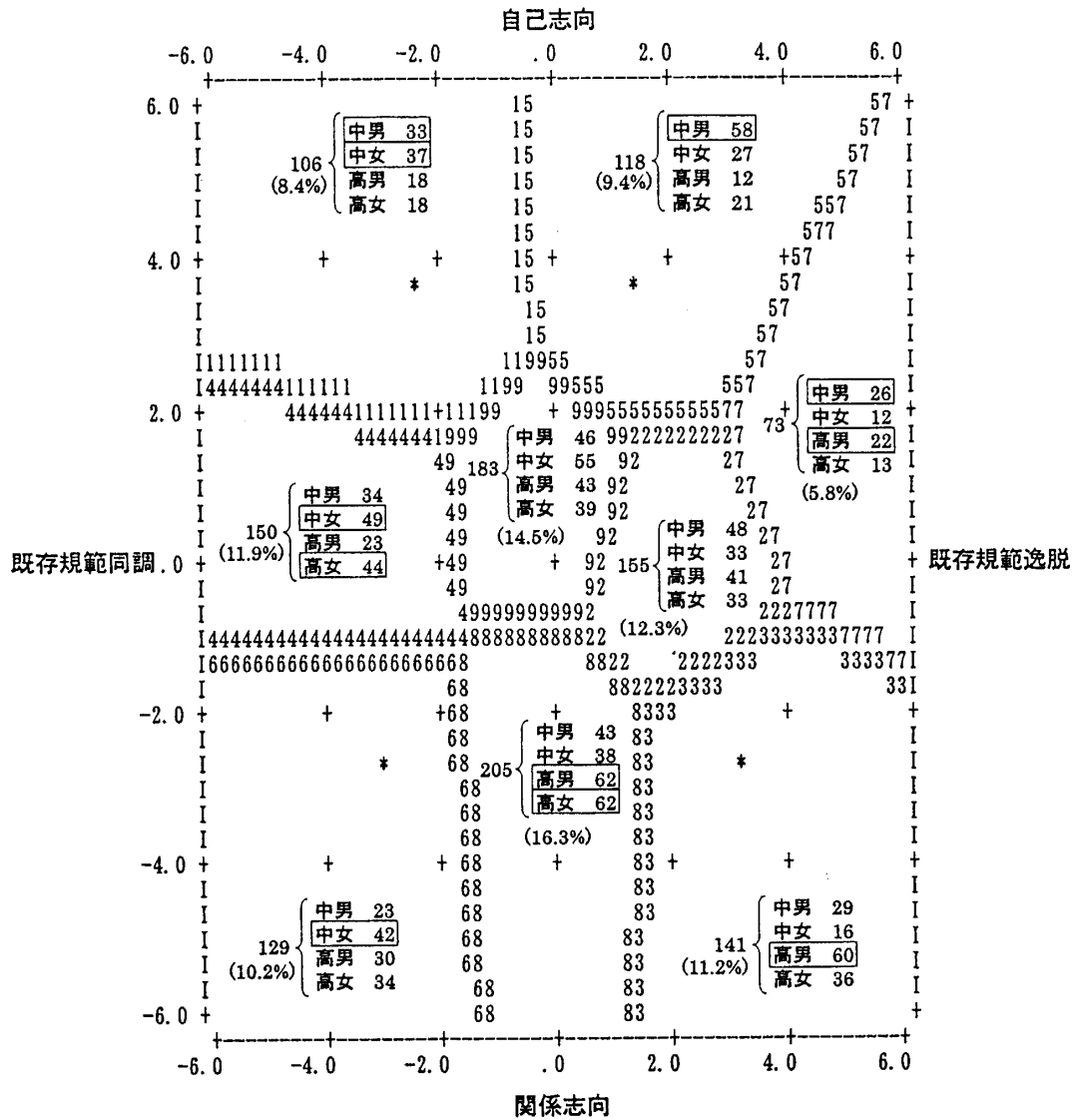
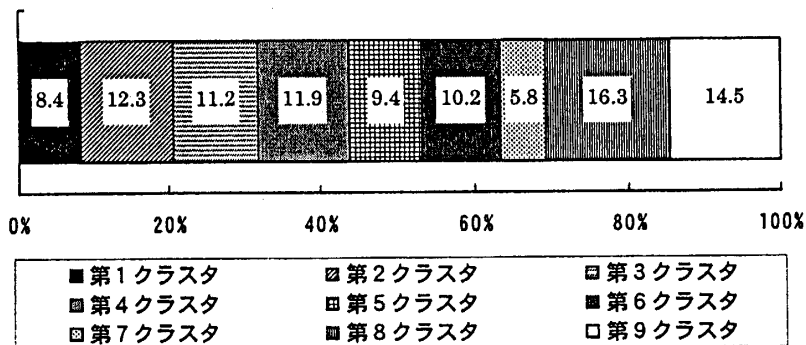


図2 9クラスタの割合



ては中間に位置し、女性が多い。世渡り上手のしっかり者というイメージである。第5クラスタは、既存規範を逸脱し、自己志向に偏っており、中学生男性に多い。自分の正義感や価値観をうまく表現できないクールな印象を与える人物像が思い描かれるクラスタである。第6クラスタは、既存規範に同調し、関係志向に偏っていて、やや女性が多い。友だちをととても大切に思う素直な人情家タイプが想像できる。第7クラスタは、既存規範を逸脱し、やや自己志向に偏っている。男性が多いが、属するのは73名と最も少ない人数である。行動の基準は規範ではなく、嫌だ、面倒だというような自分中心の感情による傾向が高く、同時に常に不満がくすぶった感じのイメージである。第8クラスタは、既存規範同調-逸脱の軸に対しては中間に位置し、関係志向に偏っていて高校生が多くなっている。友だち中心でなおかつ人の目を気にするタイプである。

3. 人間関係からみた各クラスタの特性

さらにこれら9つのクラスタの特性を明確にするために、この調査で同時に聞いている別の質問項目とのクロス集計を試みた。その中でも、親友、父親、母親との関係を聞いた質問とのクロス集計を取り上げ、分析を行った。これは、はじめに述べた仮説に加え、先の多変量解析において出てきた軸の1つが人間関係と関わっていることと、同時に行われた保護者調査から青少年の規範意識と親子関係の関連が推測されることによる。

表1は親友との関係に対する各クラスタの回答の割合、表2は父親との関係に対する各クラスタの回答の割合、表3は母親との関係に対する各クラスタの回答の割合をまとめたものである。各表とも、表頭の丸のついた数字が各クラスタを示しており、その各番号の下に各問への回答結果を表示した。それぞれの数値の中で、平均値より概ね10% (表中の但し書ではポイント)以上差があるものには○印、平均値との間に差はみられないがクラスタ間で差があるものには△印をつけた。

分割図との対応を考慮に入れた順番で、3表からみられる各クラスタの特性をまとめてみると、分割図左上の第1クラスタ(既存規範同調・自己志向)は、親友とは学校の先生や部活動の話をし、勉強を教えあう。一方で、異性のことについてはあまり話をせず、マンガやCDを貸し借りせず、お互いの家に泊まりあうことはない。どちらかといえば学校関係のことを介して友だちとつきあう傾向にある。父親とは、友だちのこと、担任の先生のこと、将来の職業のこと、社会の出来事、お父さんの仕事について話をする。また、勉強を教えてもらったり、手伝いをしたり、一緒にTVを見たり、一緒に買物に行ったり、休日と一緒に遊んだりと行動を共にすることが多い。同時に本気でけんかをしたり、叱られたりもする。9つのクラスタの中でも一番父親と関係が深いクラスタである。母親とは、担任の先生のことや生や死のことについて話をし、自分の性格や身体の悩みを相談する。また、勉強を教えてもらったり、手伝いをしたり、一緒にテレビを見たり休日と一緒に遊んだりする。父親、母親の両方に気をつかう一方で、両方にほめられ、自分のことをわかってきていると思っている。

その下の第4クラスタ(既存規範同調)は、親友とは社会の出来事について話をする。父親とは、生や死について話をし、手伝いをしたり、休日と一緒に遊んだり、本気でけんかをしたり、叱られたりする。母親とは、将来の職業のこと、部活動のこと、生や死、

表1 9クラスタ別にみた親友との関係

親友との関係 人数 (%)										(%)
	① 106 (8.4)	② 155 (12.3)	③ 141 (11.2)	④ 150 (11.9)	⑤ 118 (9.4)	⑥ 129 (10.2)	⑦ 73 (5.8)	⑧ 205 (16.3)	⑨ 183 (14.5)	合計 1,260 (100.0) 平均
親友がいる いない	85.8 14.2	88.4 11.6	80.1 19.9	90.0 10.0	85.6 14.4	○95.3 4.7	69.9 ○30.1	86.8 13.2	88.5 11.5	86.6 13.4
家族のことを話す 話さない	64.8 35.2	60.3 39.7	58.0 42.0	74.8 25.2	52.0 ○48.0	○77.2 22.8	51.0 ○49.0	71.6 28.4	61.3 38.8	65.0 35.0
先生のことを話す 話さない	○83.3 16.7	78.7 21.3	77.7 22.3	75.4 24.6	62.0 ○38.0	78.0 22.0	69.4 30.6	76.7 23.3	76.9 23.1	75.9 24.1
将来の職業を話す 話さない	51.6 48.4	46.3 53.7	47.3 52.7	60.7 39.3	48.0 52.0	○62.6 37.4	34.7 ○65.3	57.9 42.1	52.8 47.2	53.0 47.0
部活動のことを話す 話さない	○80.2 19.8	72.4 27.6	56.3 ○43.8	70.7 29.3	71.0 29.0	74.8 25.2	61.2 38.8	65.0 35.0	72.5 27.5	69.6 30.4
地域が-つについて話す 話さない	19.8 80.2	11.8 88.2	15.2 84.8	21.6 78.4	10.0 90.0	17.9 82.1	18.4 81.6	14.2 85.8	13.8 86.3	15.5 84.5
社会の出来事を話す 話さない	35.2 64.8	34.6 65.4	27.7 △72.3	△42.9 57.1	33.0 67.0	36.6 63.4	26.5 △73.5	31.5 68.5	39.4 60.6	34.8 65.2
生や死について話す 話さない	15.4 84.6	14.1 85.9	17.9 82.1	14.8 85.2	11.0 89.0	○26.0 74.0	12.2 87.8	18.1 81.9	13.8 86.3	16.3 83.7
異性のことを話す 話さない	49.5 ○50.5	68.4 31.6	○81.3 18.8	71.9 28.1	41.0 ○59.0	○84.6 15.4	67.3 32.7	○88.1 11.9	68.1 31.9	71.0 29.0
悩みを相談する 相談しない	44.0 56.0	39.7 60.3	46.4 53.6	50.7 49.3	28.6 ○71.4	○60.2 39.8	30.6 ○69.4	49.2 50.8	51.9 48.1	46.4 53.6
学校で一緒に行動する しない	79.1 20.9	74.3 25.7	73.2 26.8	83.0 17.0	76.0 24.0	83.5 16.5	75.5 24.5	79.0 21.0	84.3 15.7	79.1 20.9
勉強を教えあう 教えあわない	○79.1 20.9	64.7 35.3	52.7 ○47.3	73.3 26.7	68.0 32.0	74.8 25.2	55.1 ○44.9	66.7 33.3	74.4 25.6	68.5 31.5
マンガやCDを貸借する 貸借しない	67.8 ○32.2	78.7 21.3	75.0 25.0	74.8 25.2	64.0 ○36.0	82.1 17.9	71.4 28.6	82.5 17.5	79.9 20.1	76.4 23.6
親友のファッションを真似る 真似しない	8.9 91.1	14.0 86.0	△20.7 79.3	9.7 90.3	7.0 93.0	15.4 84.6	△4.1 95.9	14.6 85.4	16.9 83.1	13.3 86.7
家に泊まりあう 泊まりあわない	17.6 ○82.4	36.3 63.7	○57.1 42.9	42.2 57.8	19.0 ○81.0	○52.0 48.0	30.6 ○69.4	○61.2 38.8	26.6 ○73.4	40.2 59.8
休日に一緒に遊ぶ 遊ばない	75.6 24.4	80.6 19.4	83.0 17.0	88.0 12.0	68.0 ○32.0	85.2 14.8	76.0 24.0	89.3 10.7	79.2 20.8	81.7 18.3
一緒にいると疲れる 疲れない	9.9 90.1	16.3 83.7	20.5 79.5	13.4 86.6	17.0 83.0	6.5 93.5	○28.6 71.4	11.9 88.1	11.9 88.1	14.0 86.0
気をつかう つかわない	31.9 68.1	35.3 64.7	24.1 75.9	32.1 67.9	29.0 71.0	25.2 74.8	○40.8 59.2	23.7 76.3	31.3 68.8	29.5 70.5
本気でけんかする けんかしない	28.9 71.1	25.7 74.3	21.4 78.6	25.9 74.1	19.0 81.0	○33.3 66.7	16.3 ○83.7	27.0 73.0	23.1 76.9	25.2 74.8
短所を指摘する 指摘しない	36.7 63.3	35.3 64.7	37.5 62.5	40.0 60.0	36.0 64.0	○53.7 46.3	36.7 63.3	41.8 58.2	43.8 56.3	40.8 59.2
親友との関係に満足 不満	94.4 5.6	93.4 6.6	88.4 △11.6	91.9 8.1	85.0 △15.0	91.9 8.1	87.8 △12.2	93.2 6.8	88.8 △11.3	90.9 9.1

○：平均値より概ね10ポイント以上差があるもの

△：クラス間で差がみられたりするもの

表2 9クラスタ別にみた父親との関係

父親との関係 人数 (%)										(%)
	① 106 (8.4)	② 155 (12.3)	③ 141 (11.2)	④ 150 (11.9)	⑤ 118 (9.4)	⑥ 129 (10.2)	⑦ 73 (5.8)	⑧ 205 (16.3)	⑨ 183 (14.5)	合計 1,260 (100.0) 平均
友だちのことを話す 話さない	○52.1 47.9	31.5 ○68.5	30.2 ○69.8	43.4 56.6	37.8 62.2	○50.8 49.2	40.3 59.7	43.5 56.5	38.6 61.4	40.6 59.4
担任のことを話す 話さない	○32.3 67.7	16.1 83.9	17.1 82.9	25.9 74.1	22.5 77.5	○33.6 66.4	14.9 ○85.1	21.9 78.1	21.1 78.9	22.8 77.2
将来の職業を話す 話さない	○53.1 46.9	30.8 ○69.2	32.6 ○67.4	51.4 48.6	45.9 54.1	○59.0 41.0	33.8 ○66.2	46.2 53.8	40.4 59.6	43.8 56.2
部活動のことを話す 話さない	43.8 56.3	43.0 57.0	30.2 ○69.8	45.5 54.5	50.5 49.5	48.4 51.6	37.3 62.7	39.3 60.7	42.2 57.8	42.2 57.8
地域活動について話す 話さない	13.5 86.5	13.4 86.6	7.8 92.2	13.3 86.7	15.3 84.7	13.9 86.1	17.9 82.1	10.4 89.6	10.2 89.8	12.3 87.7
社会の出来事を話す 話さない	○52.1 47.9	33.6 66.4	27.9 ○72.1	43.0 57.0	38.7 61.3	37.7 62.3	26.9 ○73.1	33.7 66.3	33.7 66.3	36.2 63.8
生や死について話す 話さない	8.3 91.7	5.6 94.4	3.9 △96.1	△11.2 88.8	6.3 93.7	8.2 91.8	7.5 92.5	8.7 91.3	5.4 94.6	7.2 92.8
異性のことを話す 話さない	2.1 97.9	3.5 96.5	△11.6 88.4	6.3 93.7	3.6 96.4	7.4 92.6	3.0 97.0	△12.6 87.4	6.6 93.4	6.9 93.1
母親のことを話す 話さない	36.5 63.5	33.6 66.4	24.0 76.0	34.8 65.2	23.4 76.6	38.5 61.5	17.9 ○82.1	36.6 63.4	29.7 70.3	31.5 68.5
父の仕事について話す 話さない	○41.1 58.9	30.8 69.2	27.9 72.1	39.2 60.8	28.8 71.2	40.5 59.5	20.9 ○79.1	35.5 64.5	25.9 74.1	32.6 67.4
悩みを相談する 相談しない	9.4 90.6	4.9 95.1	4.7 95.3	7.7 92.3	5.4 94.6	4.9 95.1	6.0 94.0	6.6 93.4	3.6 96.4	5.8 94.2
勉強を教えてくれる 教えてくれない	○35.4 64.6	18.9 81.1	11.6 ○88.4	31.5 68.5	31.5 68.5	17.2 82.8	19.4 80.6	17.5 82.5	24.7 75.3	22.7 77.3
手伝いをする しない	○46.9 53.1	18.3 ○81.7	19.4 80.6	○41.1 58.9	23.4 76.6	34.4 65.6	16.7 ○83.3	28.4 71.6	27.9 72.1	28.7 71.3
一緒にTVを見る 見ない	○80.2 19.8	60.8 39.2	51.9 ○48.1	75.5 24.5	72.1 27.9	70.2 29.8	52.2 ○47.8	66.8 33.2	69.3 30.7	67.0 33.0
一緒に買い物に行く 行かない	○52.1 47.9	34.3 65.7	28.7 ○71.3	46.9 53.1	45.9 54.1	44.3 55.7	23.9 ○76.1	37.4 62.6	45.2 54.8	40.3 59.7
一緒に遊ぶ 遊ばない	○26.0 74.0	9.1 90.9	7.0 △93.0	○25.9 74.1	13.5 86.5	12.3 87.7	6.0 △94.0	13.7 86.3	13.3 86.7	14.2 85.8
気をつかう つかわない	△28.1 71.9	21.8 78.2	14.7 △85.3	23.2 76.8	20.7 79.3	23.8 76.2	△29.9 70.1	18.6 81.4	26.5 73.5	22.5 77.5
本気でけんかする けんかしない	△28.1 71.9	17.6 △82.4	△29.5 70.5	△28.7 71.3	17.3 △82.7	△28.9 71.1	20.9 △79.1	△32.8 67.2	25.3 △74.7	26.0 74.0
褒められる 褒められない	○53.7 46.3	40.8 59.2	35.7 64.3	51.0 49.0	40.5 59.5	42.1 57.9	23.9 ○76.1	41.0 59.0	46.7 53.3	42.6 57.4
叱られる 叱られない	△55.2 44.8	43.7 △56.3	△51.9 48.1	△56.6 43.4	48.2 △51.8	△52.5 47.5	41.8 △58.2	△54.1 45.9	47.6 △52.4	50.6 49.4
話に感心する 感心しない	44.8 55.2	39.9 60.1	27.9 ○72.1	○46.9 53.1	40.5 59.5	41.8 58.2	22.4 ○77.6	32.2 67.8	34.3 65.7	37.1 62.9
わかってきている わかっていていない どちらともいえない	○42.6 24.5 33.0	26.1 △40.8 33.1	21.1 ○49.2 29.7	△39.7 36.2 24.1	○42.0 25.9 32.1	△39.0 41.5 19.5	22.4 35.8 ○41.8	24.9 △44.2 30.9	28.7 △43.9 27.4	31.4 39.1 29.5

○：平均値より概ね10ポイント以上差があるもの

△：クラスタ間で差がみられたりするもの

表3 9クラスター別にみた母親との関係

(%)

母親との関係 人数 (%)	① 106 (8.4)	② 155 (12.3)	③ 141 (11.2)	④ 150 (11.9)	⑤ 118 (9.4)	⑥ 129 (10.2)	⑦ 73 (5.8)	⑧ 205 (16.3)	⑨ 183 (14.5)	合計 1,260 (100.0) 平均
友だちのことを話す 話さない	78.0 22.0	73.2 26.8	71.0 29.0	86.9 13.1	82.1 17.9	85.7 14.3	69.4 ○30.6	80.3 19.7	77.7 22.3	78.7 21.3
担任のことを話す 話さない	○67.0 33.0	49.7 50.3	44.9 ○55.1	62.1 37.9	59.8 40.2	○69.8 30.2	44.4 ○55.6	53.0 47.0	58.7 41.3	56.6 43.4
将来の職業を話す 話さない	64.0 36.0	56.9 43.1	52.9 47.1	○69.7 30.3	55.4 44.6	○69.8 30.2	51.4 ○48.6	63.1 36.9	58.4 41.6	60.6 39.4
部活動のことを話す 話さない	60.0 40.0	55.6 44.4	44.2 ○55.8	○64.8 35.2	58.0 42.0	62.7 37.3	47.9 52.1	49.5 50.5	59.2 40.8	55.8 44.2
地域球・ツについて話す 話さない	14.0 86.0	8.5 91.5	8.7 91.3	11.0 89.0	10.7 89.3	12.7 87.3	6.9 93.1	8.4 91.6	7.3 92.7	9.6 90.4
社会の出来事を話す 話さない	46.0 54.0	34.6 65.4	27.5 ○72.5	48.3 51.7	○50.0 50.0	44.4 55.6	26.4 ○73.6	40.9 59.1	31.8 68.2	38.9 61.1
生や死について話す 話さない	△14.0 86.0	11.1 88.9	7.2 △92.8	△15.9 84.1	11.6 88.4	△12.7 87.3	8.3 △91.7	△14.9 85.1	9.6 △90.4	11.9 88.1
異性のことを話す 話さない	19.0 81.0	18.3 81.7	20.3 79.7	△24.8 75.2	9.0 ○91.0	△25.4 74.6	16.7 83.3	△26.7 73.3	19.6 80.4	20.7 79.3
父親のことを話す 話さない	51.5 48.5	40.1 59.9	39.1 60.9	○56.9 43.1	42.7 57.3	54.8 45.2	37.5 ○62.5	51.5 48.5	42.5 57.5	46.7 53.3
母の仕事について話す 話さない	43.9 56.1	37.9 62.1	29.7 △70.3	44.8 55.2	35.7 64.3	○49.2 50.8	23.6 ○76.4	36.8 63.2	35.8 64.2	37.9 62.1
悩みを相談する 相談しない	○30.0 70.0	15.8 84.2	11.6 ○88.4	○30.6 69.4	16.2 83.8	27.8 72.2	12.5 87.5	24.6 75.4	20.7 79.3	21.5 78.5
勉強を教える 教えてくれない	△26.0 74.0	11.8 88.2	13.8 86.2	20.7 79.3	22.1 77.9	22.2 77.8	15.3 84.7	13.4 86.6	20.1 79.9	17.9 82.1
手伝いをする しない	○75.0 25.0	54.9 45.1	45.3 ○54.7	○78.5 21.5	58.0 42.0	65.9 34.1	44.4 ○55.6	59.9 40.1	62.0 38.0	60.9 39.1
一緒にTVを見る 見ない	△77.0 23.0	66.7 33.3	63.8 △36.2	○81.3 18.8	68.8 31.3	△77.8 22.2	58.3 ○41.7	69.0 31.0	72.1 27.9	70.9 29.1
一緒に買物に行く 行かない	68.0 32.0	63.4 36.6	55.5 44.5	○77.2 22.8	58.0 42.0	72.2 27.8	54.2 ○45.8	65.0 35.0	64.0 36.0	64.8 35.2
一緒に遊ぶ 遊ばない	○27.0 73.0	10.5 89.5	8.8 91.2	21.4 78.6	11.6 88.4	16.7 83.3	13.9 86.1	14.3 85.7	15.8 84.2	15.3 84.7
気をつかう つかわない	△26.0 74.0	18.3 81.7	13.9 △86.1	23.6 76.4	23.2 76.8	22.2 77.8	△25.0 75.0	17.3 82.7	19.0 81.0	20.2 79.8
本気でけんかする けんかしない	33.0 67.0	30.1 69.9	35.5 64.5	36.4 63.6	28.6 71.4	△44.8 55.2	31.9 68.1	△45.0 55.0	37.4 62.6	36.7 63.3
褒められる 褒められない	○64.6 35.4	47.4 52.6	40.6 ○59.4	○61.4 38.6	58.6 41.4	52.4 47.6	38.9 ○61.1	49.5 50.5	55.3 44.7	52.2 47.8
叱られる 叱られない	63.6 36.4	58.8 41.2	64.5 35.5	60.7 39.3	57.1 42.9	○73.0 27.0	50.0 ○50.0	△70.9 29.1	57.1 42.9	62.6 37.4
話に感心する 感心しない	42.0 58.0	27.5 72.5	22.5 ○77.5	○48.3 51.7	37.5 62.5	42.1 57.9	27.8 72.2	31.8 68.2	30.3 69.7	34.1 65.9
わかってきている わかってきていない どちらともいえない	○66.3 10.2 23.5	45.0 △26.8 28.2	38.5 ○40.8 20.8	△53.1 23.8 23.1	○60.9 12.7 26.4	△55.9 22.9 21.2	34.8 31.9 ○33.3	42.8 △34.0 23.2	48.3 △29.9 21.8	49.1 26.8 24.1

○：平均値より概ね10ポイント以上差があるもの

△：クラスター間で差がみられたりするもの

異性のこと、お父さんのことについて話をすると同時に、自分の性格や身体の悩みを相談している。また、手伝いをし、一緒にテレビを見て、買い物に出かける。母親からはほめられる。両親の話に感心し、自分のことをわかってくれていると思っている。

左下の第6クラスタ(既存規範同調・関係志向)では、95%が「親友がいる」と答えている。その親友とは、家族のこと、将来の職業のこと、生や死、異性のことについて話をし、自分の性格や身体の悩みを相談する。お互いの家に泊まりあったり、本気でけんかをしたり、相手の短所をはっきりと指摘したりしている。親友とはとても深いつきあいをしているようである。父親とは、友だちのこと、担任の先生のこと、将来の職業のことについて話をし、母親とは、担任の先生のこと、将来の職業のこと、生や死、異性のこと、お母さんの仕事について話をし、一緒にテレビを見る。父親、母親の両方と本気でけんかをし、叱られるが、両親ともに自分のことをわかってくれていると思っている。

下部中央の第8クラスタ(関係志向)は、親友と異性のことについて話をし、お互いの家に泊まりあっている。この2点はセットになって特徴となる傾向にあり、他のクラスタでも異性のことを話す割合が高いとお互いの家に泊まりあう割合も高くなっている。父親とは異性のことについて話をし、母親とは生や死、異性のことについて話をし、両親と本気でけんかをし、叱られ、自分のことをわかってくれていないと思っている。

右下の第3クラスタ(既存規範逸脱・関係志向)は、親友と異性のことについては話すが、部活動や社会の出来事については話をしない。親友のファッションをまね、お互いの家に泊まりあう。また、父親、母親とも部活動や社会の出来事について話さず、加えて生や死についても話をしない。さらに両親と一緒にテレビは見ず、気をつかわず、話に感心せず、自分のことをわかってくれていないと思っている。父親とは、友だちのことや将来の職業のことについても話をしないが、異性のことについては話をし、父親は勉強を教えず、一緒に買い物に出かけたり休日に遊んだりしない。ただし、本気でけんかをし、叱られる。母親とは、担任の先生のこと、お母さんの仕事について話をせず、自分の性格や身体の悩みを相談しない。手伝いはせず、褒められない。

なお、以上の第1・4・6・8・3クラスタには、「父親と本気でけんかをし、叱られる」という共通の特性がみられた。

図右やや上部の第7クラスタ(既存規範逸脱・やや自己志向)に属する約3割は親友はいると答えている。親友がいたとしても、家族のことや将来の職業のこと、社会の出来事について話をしない。自分の性格や身体の悩みを相談せず、勉強を教えあったりせず、お互いの家に泊まりあったりもしない。親友とずっと一緒にいると疲れを感じ、気をつかい、本気でけんかをしない。父親、母親とは担任の先生のこと、将来の職業のこと、社会の出来事、お父さんまたはお母さんの仕事のことについて話をせず、手伝いをせず、一緒にテレビを見たり買い物に出かけたりすることはない。両親にも気をつかい、ほめられたり叱られたりすることがなく、自分のことをわかってくれているかどうかどちらともいえない状態である。加えて父親とはお母さんのことについて話さず、休日一緒に遊ばず、本気でけんかはせず、話には感心しない。母親とは、生や死、お父さんのことについて話をしない。

その左隣上の第5クラスタ(既存規範逸脱・自己志向)は、親友と家族のこと、学校の

先生のこと、異性のことについて話をしない。自分の性格や身体の悩みの相談もしない。マンガやCDの貸し借りをせず、お互いの家に泊まりあわず、休日に一緒に遊ばない。父親とは本気でけんかをせず、叱られない。母親とは社会の出来事については話す、異性のことについては話さない。両親とも自分のことをわかってくれていると思っている。

また、中央部の第2クラスタ(偏りなし)は、親友との関係では特性はみられなかった。父親とは友達のこと、将来のことについて話をせず、手伝いもせず、本気でけんかをせず、叱られない。父親、母親の両方とも自分のことをわかってくれていないと思っている。同じく図中央の第9クラスタ(偏りなし)は、親友とはお互いの家に泊まりあうことはない。父親には叱られず、母親とは生や死について話をしない。父親、母親の両方とも自分のことをわかってくれていないと思っている。

この両親の自分に対する理解については、第1・4・5・6クラスタは「わかってくれている」と答える傾向にあり、第2・3・8・9クラスタは「わかってくれていない」と答える傾向にあった。

4. 考察—規範意識形成と親子関係の関連

人間関係の観点からの分析は、各クラスタの特性をかなり明確にできたのではないと思われる。ここでのクロス集計は前述のように別の独立した質問項目と行ったのであるが、それらへの回答傾向はクラスタによってかなり違いのあるものであった。特に、父親、母親との関係を問う質問への回答傾向は、クラスタ間での差異が顕著にみられ、各クラスタの特性を浮き彫りにしたと考えられる。

その中の特徴的な傾向をまとめてみると、次の4点となる。第1点は、既存規範に同調傾向にある中高生は、父親や母親といろいろな話をしたり共にする行動が多かったりと日常的な関わり合いの多い点である。第2点は、既存規範に同調あるいは自己志向が強い傾向にある中高生は、父親、母親ともに自分のことをわかってくれていることである。第3点は、既存規範に同調あるいは関係志向が強い傾向にある中高生は、父親と本気でけんかをしたり父親から叱られたりするというように父親との関わり合いが強い点である。最後に第4点は、既存規範から逸脱の傾向にあり親友もあまりいない中高生は、両親と日常的な関わり合いが少なく、親が自分のことをわかってくれているかわからないが、一方で父親、母親に気をつけていることである。

これらの傾向から、中高生の既存規範に同調する姿勢を望ましい姿ととらえると、そのような姿勢を形成するためには、親の子どもとの日常生活の中での関わり方と、親が子どもを理解しようとする態度が子どもに伝わっている程度が深く関与していると考えられる。端的に言えば、規範意識形成のためには親子関係が重要ではないかということが推測できるのである。その関係とは決して難しいものではなく、日常的な関わり合いを持つことや、子どもに「お父さん、お母さんは自分に関心を寄せていて僕(私)のことをわかってくれているんだ」という安心感を与えることであり、それが規範意識の形成を促すものであると考えられる。親(保護者)にとって大切なことは、規範を毅然と示したりそれに沿って子どもに厳しい態度で接したりすることよりも、まずは普段から子ど

もと関わりあいを持つことであろう。また、そのような関わりあいを母親だけがとるのではなく、父親も心がけていくことが重要と思われる。

5. おわりに

中高生の規範意識について、調査結果の多変量解析およびクロス集計結果の分析および考察から、親子関係との関連を指摘してきたが、おわりにこの指摘に対して2つの観点からの問題を提示しておきたい。1つは、現代の親子関係の中で、先ほど指摘したような規範意識形成に望ましい状態を作ることが可能かどうかという問題である。就業構造や生活様式、家族形態の変化によって、親が子どもと一緒に過ごす時間はそれぞれが意識的に作り出さないと確保が難しい時代である。特に、家庭における父親の存在についてはそのあり方を見直さざるを得ないであろう。会社勤めのように家の外で仕事をする時代の中で、父親の働く姿や子どもへの関心の程度を、直接子どもに伝える手段を考える必要があると思われる。母親が専業主婦の場合には、子どもの教育が母親任せになり父親の存在が薄くなりがちであるが、まずは子どもの教育について夫婦で考えることを強く意識し、父親が積極的に子どもにかかわることが重要であろう。また、共働きであれば、母親も父親と同様のことを考えて、夫婦で子どもとの関わりあい方について考える必要があると思われる。

もう1つは、この調査を通して、青少年の中に新しい時代に新しい規範を作ろうとする兆候が見出せなかったことである。本論の冒頭で述べたように、若者の規範や行動はいつの時代も年長の世代の批判的となる。また、考察において「中高生の既存規範に同調する姿勢を望ましい姿ととらえると」という表現を用いた箇所がある。規範の中には社会の変化に伴って変えざるを得なかったり新しく作らなければならなかったりする部分が在ると考えられる。その規範を改める作業の中では、既存規範にはどうしても同調できない姿勢も出てくるであろう。今回の調査では、それは既存規範からの逸脱という形でしか現れてこなかった。メディア環境などの急激な変化の中で、新たに作り上げる必要のある規範は数多くあるはずである。青少年には、そのような新しい社会の規範を自ら創りあげようとする意欲や能力が重要ではないだろうか。そのような意味で、既存規範に同調することだけを望ましい姿とするのには問題が残ると考え、前述のような表現を用いたのである。大人たちは青少年に対して、既存規範を伝え同調を促すだけでなく、時代にふさわしい規範をともに創りあげようとする環境を整えることが必要であろう。

研究上の課題としては、規範意識を問うための設問の仕方及び分析方法の妥当性についてはさらに検討の必要性があげられる。また、新しい時代の規範を青少年とともに創りあげるにあたり、その内容を検討する必要があると思われる。

最後に、本研究にあたり、調査結果を提供くださった静岡県青少年問題協議会および静岡県教育委員会、このような研究の機会を与えてくださり助言くださった静岡大学教育学部の馬居政幸先生、調査結果の分析および図表の作成に協力してくださったサーベイリサーチセンター静岡事務所の一杉浩史様にお礼申し上げます。

注

- 1) この調査は、平成12年12月に、静岡県下の小学5年生・中学2年生・高校2年生1,946名及び、調査対象となった中学2年生の家庭と静岡県下の幼稚園・保育所に通う子どものいる家庭の保護者1,398名を対象に、学校・幼稚園・保育所を通じた配布・回収により、無記名方式で行われた。本研究の分析に用いた中学生・高校生の調査票の回収数ならびに回収率は、中学生で649票・97.4%、高校生で611票・94.9%であった。
- 2) 分析には、一般的に使用頻度の高いSPSSという統計ソフトを用いた。なお、詳しい分析結果については、馬居政幸・松永由弥子・一杉浩史・三澤茂子「青少年の規範意識に関する調査研究」(静岡大学教育学部研究報告(教科教育学篇)第34号) pp11～31を参照のこと。
- 3) 各クラスタの特性の詳細及び類型化に伴う問題点の指摘については、同上 pp21～30を参照のこと。なお、ここでは、本論での各クラスタの分析との関わりから、あえて各クラスタの特徴を概略して示した。

参考文献

1. 静岡県青少年問題協議会・静岡県教育委員会『青少年・保護者の規範意識に関する調査結果報告書』平成13年3月
2. 馬居政幸・松永由弥子「子どもをめぐる保護者の規範意識の特性と課題」(日本生涯教育学会論集23、pp101～112)平成14年11月
3. 馬居政幸・松永由弥子・一杉浩史・三澤茂子「青少年の規範意識に関する調査研究」(静岡大学教育学部研究報告(教科教育学篇)第34号、pp11～31)平成15年3月
4. 深谷昌志編『子どもの規範意識を育てる：子どもの規範感覚の検証と子どもの規範形成の探求』(教職研修総合特集)教育開発研究所 平成14年
5. 大西文行責任編集『道徳性と規範意識の発達』(新・児童心理学講座9)金子書房 平成3年
6. 谷川稔他著『規範としての文化：文化統合の近代史』ミネルヴァ書房 平成15年
7. アーロン・ハス著 橋本恵訳『モラル・インテリジェンス：カオス社会を生きぬく第三の能力』DHC 平成12年
8. 諏訪卓三『道徳意識と規範の逆説』アカデミア出版会 平成10年